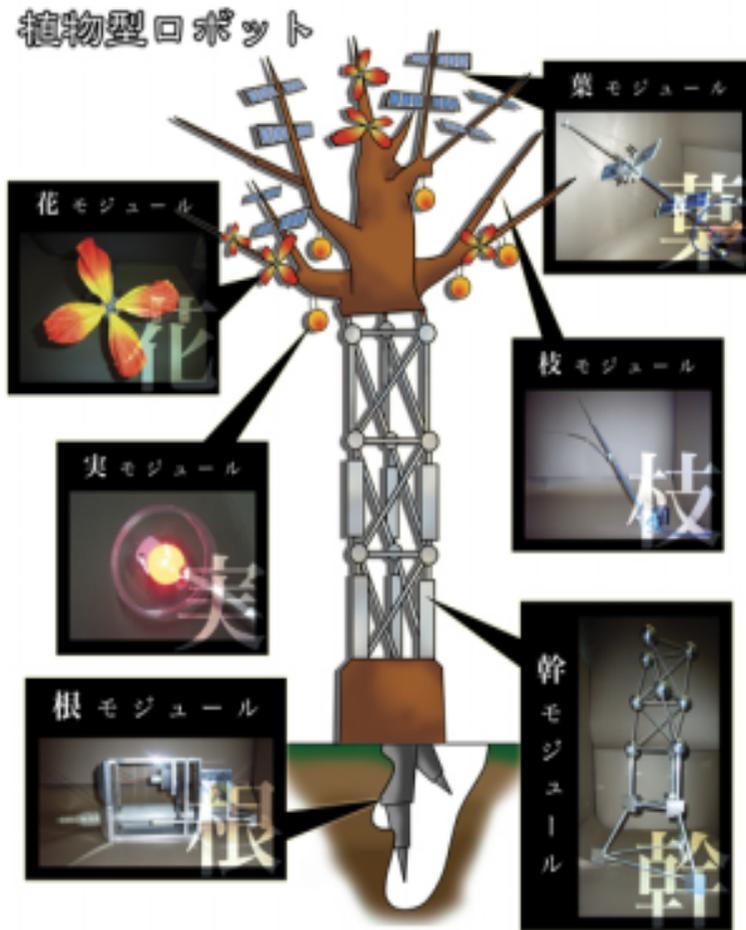


植物型ロボット



連携企業：(株)ユニメック(各務原市、自動機製作)
商品化へ向けた共同開発

植物型ロボット

実際の植物は幹・根・葉など様々な部分で構成され、それぞれの部分は植物自体を支えたり、水養分の補給経路となったり、光合成を行ったりといったように、それぞれが独自の機能を持ってひとつの生命として成り立っています。

そこで、動物型ロボットに比較して開発例が少ない植物型ロボットでも、実際の植物になって、独自の機能を持ったいくつかのロボット要素(モジュール)に分けて開発を進め、新しい植物型ロボットの設計方法を獲得します。

具体的には、幹(茎を含む)・根・葉・枝・花・実の6つのモジュールを製作します。そうすることで、ロボットの設置場所の条件に合わせて機能を選択することができますし、各モジュールは植物型ロボットに使うだけでなく、単独の機能を活かした別の工学を含むいろいろな用途にも応用可能となります。



担当：総合機械工学科 山川研究室